

特定漁港漁場整備事業計画書

【当初】

浜坂地区

兵 庫 県

特定漁港漁場整備事業計画書

1 目的

目的
<p>(1) 地域の特徴</p> <p>本地域は山陰海岸国立公園に指定され、山地が多い地形の中、河川の河口部に形成された平地に位置している。東には、リアス式海岸の海蝕地形による崖、洞門、洞窟が連続する「但馬御火浦」を擁し、国の名勝・天然記念物にも指定された世界屈指の景勝地である。気象は日本海岸気候に属し、年間を通じて多雨多湿で、冬季は山間部を中心に積雪が多く、豪雪地域に指定されている。</p> <p>(2) 水産業の沿革と現状</p> <p>本地域の水産業は、古くは小型船による沿岸漁業が中心で、定置網や刺網漁業などによるカニ・カレイ類の漁獲や、イカ類を対象とした一本釣漁業などが営まれていた。漁港整備とともに、漁場は沿岸から沖合へと拡大し、沖合底びき網漁業が主力となり、水揚げ量が大きく増加した。</p> <p>近年では、するめいか資源の減少によりイカ釣り漁業が低迷しているものの、対馬暖流の沿岸分岐流によって好魚場が形成され、沖合底びき網漁業のズワイガニ、ハタハタ、ホタルイカなどの水揚げ量が全国上位を占めている。水産業は基幹産業として、水産加工業を発展させつつ地域経済を支えている。</p> <p>(3) 漁港漁場の沿革と役割</p> <p>本漁港は日本海に面し、昭和26年に第3種漁港の指定を受け、香住漁港と併せて但馬地域における沖合底びき網漁業の主要な活動基地として、中核的な陸揚拠点に位置付けられている。</p> <p>漁港指定当時は、日本海を北西に見る岸田川河口を船溜として利用しており、但馬有数の漁港であったが、冬季は北西風による激浪をまともに受けることや、河口に位置し上流からの土砂や浜砂の流入が激しいことなどから、船舶の出入りすら困難であり、水産基盤の整備が強く望まれていた。</p> <p>このため、湾内西部に新港を築造することとなり、昭和23年度から修築事業に着手した。第1次および第2次漁港整備長期計画において北防波堤、沖防波堤等を整備し、第3次から第5次計画で内港の整備を行った。さらに、第6次計画では内港北側の埋立や漁港施設の充実を図り、現在の形態が整った。</p> <p>第7次計画以降は、安全性の確保や就労環境の改善を目的とした防波堤の新設、給油施設等の整備を進めるとともに、第9次漁港整備長期計画からは、諸寄・浜坂漁港の漁獲物の荷捌業務を集約化するため、漁港関連道の整備を行い、現在に至っている。</p> <p>(4) 当該事業計画の目的</p> <p>①漁業活動の生産性向上</p> <p>当地区では、主体となる沖合底引き網漁業の操業効率の向上などを図るため、漁船の大型化が進んでいる。現状の岸壁、泊地では、満載時や干潮時に船底を擦るなどの支障が生じているため、岸壁の増深を行い、当地区の生産力を強化する。</p> <p>また、近年、気候変動による波高の増大や冬季風浪による越波等により港内静穏度が低下し漁業活動への支障が生じている。防波堤の嵩上げ等の改良によって港内静穏度の確保・作業環境の改善を図り、持続可能な漁業生産を確保する。</p> <p>②耐震性能の強化</p> <p>陸揚げや準備作業を行う岸壁等は耐震性能が不足しており、地震が発生した場合、陸揚げ等の機能が長期間維持できなくなることを危惧されるため、岸壁・護岸の耐震化により漁業生産活動の持続性を確保する。</p> <p>また、兵庫県地域防災計画において防災拠点漁港に位置付けられているため、岸壁の耐震強化により、大規模地震時における緊急物資の輸送機能を確保する。</p>

2 施行に係る区域及び工事に関する事項

(1) 区域に関する事項

イ 区域名

区域名	浜坂
-----	----



ロ 所在地等

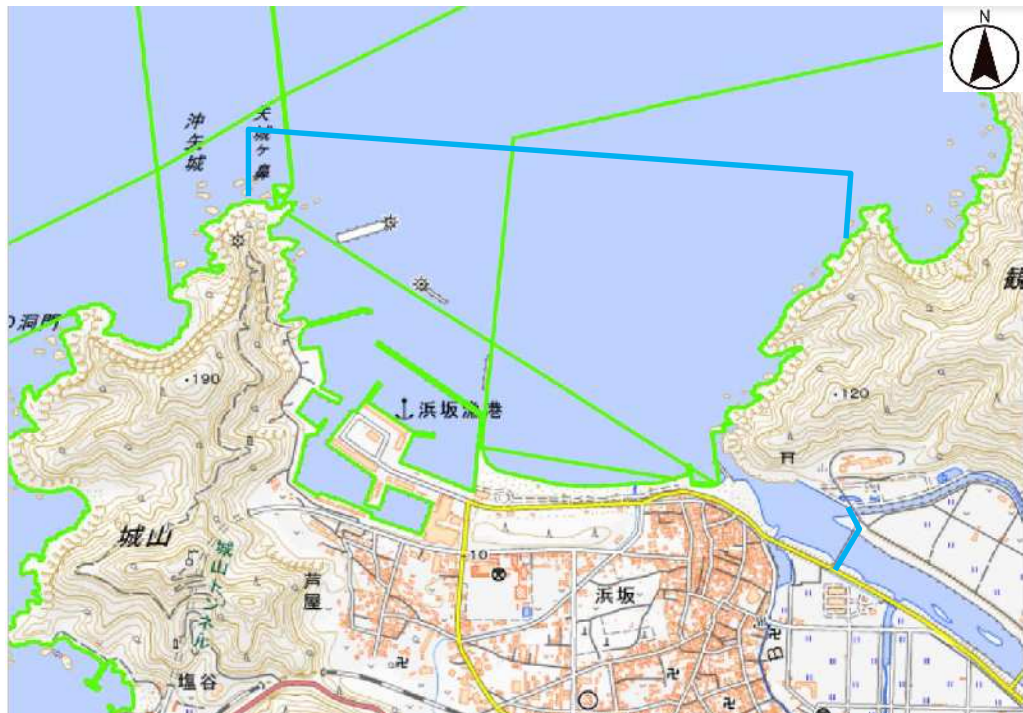
都道府県名	兵庫県	関係市町村名	新温泉町
地域指定	過疎、国立公園地域		
整備対象漁港名	浜坂漁港		

ハ 位置図

位置図

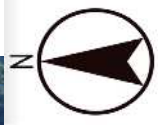


凡 例	
	漁港区域
	共同漁業権



写真等

航空写真



令和7年9月撮影

写真位置図



[以下写真：令和8年2月撮影]

①防波堤



②防波堤



③新港-5.0m岸壁



④新港-5.0m岸壁



⑤新港-4.0m岸壁



⑥1号芦屋-5.0m岸壁



⑦1号芦屋-4.0m岸壁



⑧1号芦屋-4.0m岸壁



⑨-4.0m岸壁



⑩護岸



⑪泊地



⑫漁船大型化 (144 t)



⑬漁船大型化 (前：左95 t、後：右144 t)



⑭波浪状況



⑮波浪状況



冬季風浪等による越波で市場前の港内静穏度が低下し、岸壁に係留できない状況

二 当該区域の水産業に関わる現況、課題及び整備方針

当該区域の水産業に関わる現況、課題及び整備方針

(1) 漁業活動の生産性向上

①現状と課題

本地区の沿岸及び沖合域は対馬暖流の沿岸分岐流によって好魚場をなし、ズワイガニ、ハタハタ、ホタルイカなどの沖合底びき網漁業やイカ釣り漁業の水揚量が全国上位を占め、水産業は基幹産業として、水産加工業を發させつつ地域経済を支えている。主体となる沖合底びき網漁業の操業効率の向上等を目的として漁船の大型化が進んでいるが、現状の岸壁では水深が不足し、満載時や干潮時に船底を擦る等の支障が生じている。また、近年の気候変動の影響により波高や潮位が増大し、冬季風浪等による越波で市場前の港内静穏度が低下するため、湾奥部で陸揚げしてフォークリフトで市場へ運搬するなど、陸揚げ作業の効率性、安全性に課題がある。

②整備方針

岸壁・泊地の増深による漁船の大型化対応と、防波堤の嵩上げによる港内静穏度の向上により、漁業活動の生産性向上を図る。

(2) 耐震性能の強化

①現状と課題

当地区の陸揚げや準備作業を行う岸壁等は耐震性能が不足しており、地震が発生した場合、陸揚げ等の機能が長期間維持できなくなることを危惧される。また、県の地域防災計画では、防災拠点漁港として位置付けられており、緊急物資輸送拠点として、重要な役割を担っている。

②整備方針

岸壁・護岸の耐震化により漁業精算活動の持続性を確保するとともに、岸壁の耐震強化により、大規模地震時における緊急物資の輸送機能を確保する。

ホ 整備対象漁港の現況及び見通し

(現況)

令和7年12月現在

整備対象 漁港名	属地陸揚量 2,088 ト	属地陸揚金額 2,597 百万円	属人漁獲量 1,620 ト
浜坂漁港 (第3種)	登録漁船隻数 69 隻	利用漁船隻数 81 隻	漁船以外利用船舶隻数 23 隻
	主な漁業種類 沖合底引き網漁業	主な魚種 ずわいがに、いか類、えび類	

(将来見通し)

目標年：令和17年

整備対象 漁港名	属地陸揚量 2,272 ト	属地陸揚金額 3,344 百万円	
浜坂漁港 (第3種)	登録漁船隻数 69 隻	利用漁船隻数 81 隻	漁船以外利用船舶隻数 23 隻

将来見通しの考え方

< 属地陸揚量 >

直近5年間の実績値をもとに、目標年次の属地陸揚量を回帰予測により2,272トと想定とした。同期間の属地陸揚量はR6年度に減少傾向から増加傾向に転じたことから、想定値は妥当である。

< 陸揚金額 >

直近5年間の実績値をもとに、目標年次の属地陸揚金額を回帰予測により3,344百万円と想定とした。同期間の属地陸揚金額は増加傾向にあることから、想定値は妥当である。

< 登録漁船隻数 >

直近5年間の実績値をもとに、目標年次の登録漁船数を回帰予測により69隻と想定した。同期間の登録漁船数について、減少傾向から横ばい傾向になっていることから、想定値は妥当である。

< 利用漁船隻数 >

直近5年間の実績値をもとに、目標年次の利用漁船数を回帰予測により81隻と想定した。同期間の利用漁船数について、減少傾向からR6年度に増加に転じたことから、今後横ばいに推移するものとして想定値は妥当である。

< 漁船以外利用船舶隻数 >

直近5年間の実績値をもとに、目標年次の漁船以外利用船舶隻数を回帰予測により23隻と想定した。同期間の漁船以外利用船舶隻数について、横ばい傾向であることから、想定値は妥当である。

(2) 工事に関する事項

イ 主要施設の種類、規模及び配置等

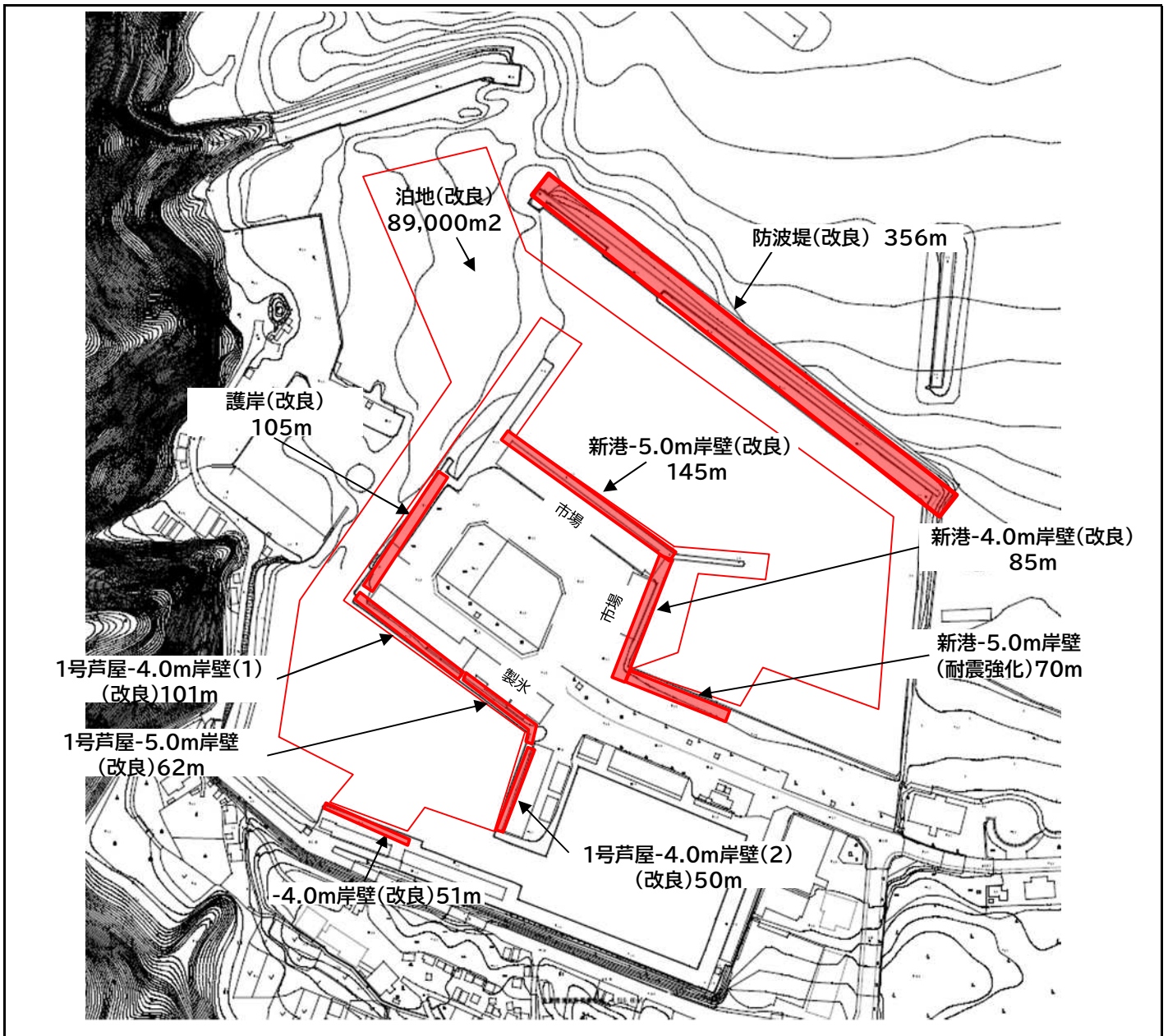
(漁港施設)

都道府県名	整備対象漁港名	漁港種別	所管	事業主体名	漁港管理者名
兵庫県	浜坂漁港	第3種	本土	兵庫県	兵庫県
計画施設	計画工事種目	単位		計画数量	備考
外郭施設	防波堤（改良）	m		356	昭和30年築造 耐震、耐津波、耐波浪
外郭施設	護岸（改良）	m		105	昭和35年築造 耐震 耐津波、耐波浪
係留施設	新港-5.0m岸壁（改良）	m		145	昭和58年築造 耐震 耐津波、増深
係留施設	新港-5.0m岸壁（耐震強化）	m		70	昭和58年築造 耐震強化 耐津波、増深
係留施設	新港-4.0m岸壁（改良）	m		85	昭和58年築造 耐震、耐津波
係留施設	1号芦屋-5.0m岸壁（改良）	m		62	昭和39年築造 耐震 耐津波、増深
係留施設	1号芦屋-4.0岸壁(1)（改良）	m		101	昭和39年築造 増深
係留施設	1号芦屋-4.0岸壁(2)（改良）	m		50	昭和39年築造 増深
係留施設	-4.0m岸壁（改良）	m		51	昭和63年築造 増深
水域施設	泊地（改良）	㎡		89,000	昭和49年築造 増深

ロ 工事の着手及び完了の予定時期

着手年度	令和8年度	完了予定年度	令和17年度

ハ 計画平面図



3 事業費に関する事項

計画事業費	5,313 (百万円)
-------	-------------

4 効果に関する事項

1. 主要な水産施策別の事業効果			
<p>本事業において、満載時や干潮時に漁船が船底を擦るなどの支障が生じているため、岸壁の増深を行い、当地区の生産力の強化が図られる。</p> <p>陸揚げや準備作業を行う岸壁等は耐震性能が不足しており、地震が発生した場合、陸揚げ等の機能が長期間維持できなくなることが危惧されるため、岸壁等の耐震化を行い、漁業活動の早期復旧体制を確保することができる。兵庫県地域防災計画において防災拠点漁港に位置付けられており、緊急物資輸送の拠点としての機能を確保することができる。</p> <p>防波堤の嵩上げ等の改良によって港内静穏度の確保・作業環境の改善を図り、持続可能な漁業生産を確保することができる。</p>			
2. 地域に与える影響			
<p>漁船大型化に対応した岸壁の増深や耐震化による防災力の強化を図ることで、水産業の生産力強化や災害時の早期復旧体制が確保されることにより、地域経済の発展に寄与する。</p>			
3. 費用対効果分析結果			
社会的割引率	4%	投資期間	令和8年～令和17年
現在価値化の基準年度	令和7年度	施設の耐用年数	50年
貨幣化による分析結果			
貨幣化した効果項目	①水産物生産コストの削減効果 ②漁獲機会の増大効果 ③漁業就業者の労働環境改善効果 ④生命・財産保全防御効果 ⑤避難・救助災害対策効果		
総便益額 B	5,091 百万円		
総費用額 C	4,046 百万円		
費用便益比率 (B/C)	1.26		
参考	純現在価値: (B-C)	1,045 百万円	
	内部収益率: (IRR)	4.9 %	
4. 事業の定量的・定性的効果(貨幣化が困難な効果)			
<p>水産物認知度向上への貢献や、漁港を活用したイベント等を通じた地域振興への貢献が期待される。</p>			

5 環境との調和に関する事項

環境との調和に関する事項
<p>山陰海岸国立公園内にあり、既存構造物を有効活用することで、景観や自然環境等への影響を最小限に抑える。防波堤及び岸壁等の改良にあたっては、濁りの発生・拡散を抑制する対策や他船との衝突を避ける対策などを施しつつ、沿岸の環境に配慮した施工、機材、材料等を用いて行う。</p>

6 他の水産業に関する施設との関係に関する事項

施設名	施設規模・内容	本事業との関係	備考
—	—	—	—